

## 資料1-2

No	発言者	発言内容	懇談会における宮城県の回答
1	西村委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>遊水地などのように余裕を持った災害制御方式は河川にとっては、プラス。</li> <li>広浦はいい環境である。維持管理においても環境面でのフォローアップがほしい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>維持管理の中に環境面の内容も反映します。</li> </ul>
2	伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域と一体となって自然環境を保全してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連携しながら自然環境を保全しつつ、河川整備を進めていきます。</li> </ul>
3	西條委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>南沢川では30年間に20回被害に遭っている。安全に暮らせるように堆積土砂撤去を適切に実施してほしい。</li> <li>ヨシが繁茂し、河積を阻害している。維持管理の頻度を検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆積土砂の撤去については、河積阻害率が20%以下となるよう適切に実施します。</li> <li>除草については、「河川維持管理計画（案）」に基づき、適切に実施します。</li> </ul>
4	高橋委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境アドバイザー制度については、県独自の取組なのか。また、関係機関との連携はどうか。</li> <li>水への親しみ方にもいろいろある。親水性のみならず多様な水への親しみ方に配慮してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境アドバイザー制度については、河川、海岸のみならず、港湾、漁港及び農林海岸についても連携を図りながら実施します。</li> <li>多様な水の親しみ方に配慮できるよう、河川整備を進めていきます。</li> </ul>
5	大山委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域に生息する在来種に配慮して、緑化を考えてほしい。</li> <li>南沢川については、鮭の遡上なども見られるので、産卵環境を確保してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>覆土などを実施する場合には、既存種が生育できるよう配慮します。</li> <li>河道掘削する場合には、河床材料などの改変を極力回避できるよう配慮します。</li> </ul>
6	平吹副座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>流域管理については、土木分野だけではない。林野やまちづくりといった横のつながりにも意識してほしい。</li> <li>「貞山運河再生・復興ビジョン」との整合性についてはどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関係機関と連携しながら河川整備を進めていきます。</li> <li>「貞山運河再生・復興ビジョン」についても、貞山運河の復旧など河川整備計画に反映します。</li> </ul>
7	真野座長	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆積土砂については、どのようにモニタリングしているのか。</li> <li>氾濫被害を軽減できるように超過洪水についてもハードの面から検討してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>堆積土砂については年1回モニタリング調査しています。経年変化についても調査・検討を進めていきます。</li> <li>超過洪水については、ハザードマップの利活用といったソフト施策を中心に、対策を進めていきます。</li> </ul>